



青年部・女性部・フレッシュミズ 創立10周年を祝して

きたみらい農業協同組合

代表理事組合長 西川 孝 範

JAきたみらい青年部・女性部・フレッシュミズが創立10周年を迎えられましたことに心からお祝い申し上げます。

また、協議会からスタートし今日までの間、多くの皆さんの知恵と汗を結集した取り組みがあり、歴代の役員の方々をはじめ関係各位に対し、あらためて厚く感謝を申し上げます。

さて現在、農業・JAを取り巻く情勢は、さまざまな難問が山積しております。特にTPPIは消費者に安全・安心な農畜産物を安定的に提供する使命を預かる我々にとっては、甚大な影響を及ぼすことは明らかであり、地域経済が崩壊しかねない危機感にさらされており、国会決議の遵守を強く訴えているところです。

農民の協同組織の発達を促進し、農業生産力の増進と農民の経済的社会的地位の向上を図り、あわせて国民経済の発展を期することを目的として誕生したのがJAであります。

昨今、「農協等に関する改革の推進」についてとりざたされておりますが、時代が変わっても組合員の自主的な相互扶助と組合員への最大の奉仕であることに、いささかも変わりはありません。

JAの使命は、組合員の営農と生活を守り、組合員が生産した安全・安心・良品質な農畜産物を消費者へ繋ぐ架け橋となること、JAの責任に基づく経営の健全化と組織基盤を確立し、地域や社会の信頼を得ることです。

JAきたみらいにおいては、「融合に向けて歩んできた10年から、学習を重視する10年」と位置づけ、青年部・女性部・フレッシュミズの三組織との定期的な意見交換会での協議を踏まえ相互の意思疎通を図り、次代を担う農業者の確保・育成を中軸にすえて、事業推進を展開していく所存です。

結びになりますが、先人達の築いたご功績を確実に次の世代に引き継ぎ、地域農業を発展させ、10年の歩みをもとに、より一層飛躍されることをご祈念申し上げお祝いの言葉と致します。



JAきたみらい
青年部・女性部・フレッシュミズ
10周年を祝して

北見市長
櫻田 真人

JAきたみらい青年部・女性部・フレッシュミズが発足10周年を迎えられ、心よりお祝いを申し上げます。

三組織の皆様には、日頃より当市の基幹産業であります農業の振興に、多大なご尽力とご協力を賜っておりますことに、厚くお礼申し上げますとともに、平成16年2月の発足以来、共に農業を志す者として、夢と誇りを持ち、地域農業への役割や地域の連携、交流など地域農業の発展に大きく貢献いただいておりますことに、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

さて、昨今の農業を取り巻く情勢は大変厳しく、日豪EPAでは牛肉の関税を引き下げることで「大筋合意」をしたところであり、TPPへの波及が懸念されております。

また、本年は日本農業の大改革の重大な年であり、農地中間管理機構による農業担い手への農地の集積や米政策の見直しなどの農業改革が進められており、農業政策の大きな転換期を迎えております。

このような状況のなか、各産業分野での女性の社会進出は重要となっており、特に農業分野において、農業従事者もとより、育児など家庭生活全般を担い、農村地域の活動にも広く携わり、農業経営や地域社会において、女性が果たす役割は非常に大きく、重要な位置づけとなっております。

当市といたしましても、第2次北見市農業振興計画により、活力ある農業・農村づくりを推進しており、その原動力となるのが女性農業者であり、積極的に経営に参画できる支援体制の整備や環境づくりを進めております。今後ますます農業が発展していくためには、明日を担う若き青年農業者と情熱に満ち溢れた女性の力が大変重要であり、皆様の活躍に期待をしているところであります。

結びになりますが、三組織の皆様におかれましては、今後も地域社会のリーダーとして、北見市農業を牽引していただき、また、三組織がこの10年をステップとして、さらに20年、30年と益々ご発展されますとともに、皆様のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。



青年部・女性部・フレッシュミズ外郭三組織
10周年記念を祝して

訓子府町長
菊池 一春

きたみらい農業協同組合外郭三組織が発立10周年を迎えられましたことに心からお慶びとお祝いを申し上げます。

また、この記念すべき年に記念誌を発刊されることは大変意義深いものであり、発刊にご尽力された青年部・女性部・フレッシュミズの各役員の皆さまに深く敬意を表します。

まずもって、訓子府支部の活動では、青年部にはまつりの運営団体の一つとして多大なご協力をいただき、女性部におかれましては毎年盛況である収穫祭を、フレッシュミズにおかれましては交通安全のマスコット作成・配布に継続的に取り組まれ、地域を盛り上げていただいているところです。

そういった各支部を統括する組織として、現在の外郭三組織が機能していると伺っており、8支部合同活動により部員間の連携・交流を図るため、スポーツ交流大会・運動会・学習会・視察研修等が行われ、中でもソフトボールや運動会は例年本町で開催いただき、大変ありがたいことと感じております。

さて、TPP交渉につきましては、皆様のご協力をいただきながら、「農産物の関税維持」に関して各種運動を展開しているところですが、早期妥結に向けた動きがある一方で、交渉の長期化も懸念されており、われわれの地域を守るために今後も継続的な運動が必要と考えます。

これからは「超高齢社会」が到来します。また、日本の人口自体、すでに減少に転じており、少子化や人口の流出に歯止めがかからず、今後は「どの地域も人が少なくなる」社会に変わっていきます。

そういった中での地域の原動力は、間違いなく皆様であると思っておりますし、本町に限って言えば、近年は後継者が順調に就農しており、また、Uターン就農も増え心強い限りです。

やはりわが町は、農業が元気でなければ成り立ちません。今後においても、皆様方が安心して暮らせるような町づくりに努めてまいりますので、どうか皆様も「地域に根ざした活動」をこれからも念頭に置いていただき、農業への理解を求める活動にも今まで以上に力を注いでいただければと考えます。

最後になりましたが、結成10周年という節目を迎えるにあたり、これまでの歴史と教訓を踏まえ、部会員各位の生活と営農の安定をめざして、ますます充実した組織として発展されますとともに、関係の皆様のご健勝、ご多幸を心からご祈念申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。



輝く10周年を祝して

置戸町長

井上 久男

きたみらい農業協同組合の設立とともに、より広域的な組織として新たなスタートを切りました青年部、女性部、フレッシュミズの外郭三組織が10周年を迎えられました。

この間の役員をはじめ、会員の皆様のご活躍に心より敬意を表するとともにお祝いを申し上げます。

今日の農業を取り巻く情勢は、TPP問題をはじめ、目まぐるしく変化する農業政策や規制緩和の動きなど、先の見えない状況が続いています。また、地域農業を支える担い手問題や高齢化・労働力不足などは解決しなければならない大きな課題であります。

このような厳しい農業情勢のなか、役員をはじめ部会員の皆様は、次代の担い手として地域農業を牽引し、農業の継続発展に寄与していくという強い思いをもって活動をされてきました。

青年部では、研修会や先進地視察を通じて見聞を広め、より高い農業技術を習得していくなかで、多くの仲間をつくり、親睦を深められています。

女性部には、家庭の視点からも問題提起を頂いております。近年は、安心して外作業をすることのできる環境づくりの取り組みとして、介護問題について検討し、提案も頂いているとお聞きしています。

フレッシュミズは、農業未経験の方も多いと聞いていますが、様々な経験を重ねながら農業の知識を深めていくなかで、共に経営していく立場となっていられることを期待しております。

次世代の農業経営者として、また、共に経営するパートナーとして、これからの地域農業を支えていられるのは、各団体における様々な活動を通じて成長を遂げた皆様であると確信しています。

最後になりますが、きたみらい農業協同組合、外郭三組織の皆様の益々のご活躍と更なる発展をご祈念申し上げますとともに、農業の未来を担う方々にエールを込めて、お祝いの言葉いたします。



青年部・女性部・フレッシュミズ外郭三組織 10周年記念を祝して

網走農業改良普及センター

所長 河合 邦彦

JAきたみらい青年部・女性部・フレッシュミズの設立10周年を迎えられますこと心よりお祝い申し上げます。

平成15年2月の「JAきたみらい」の誕生に伴い、青年部・女性部・フレッシュミズが再編設立され、今年で10年を経過したことは、各組織の役員や部会員の皆様のご努力の結果であり、数多くの成果を収められてきたことに心より敬意を表します。

JAきたみらいが設立10年を経過して、販売取扱高を大きく伸ばし、合併農協として飛躍してきた背景にも、担い手である青年部・女性部・フレッシュミズの部会員の皆さんの役割が大きく貢献したものと考えております。

今日、農業・農村は、高齢化と担い手の減少が急速に進んでおり、地域農業を守っていくために、担い手の確保が重要な課題となっています。

網走農業改良普及センターとしても、担い手の確保・育成は、重要な課題であり、関係機関や指導農業士・農業士会と連携しながら、従前にも増して取り組んでまいりたいと考えております。

今後、地域の担い手確保・育成を目標とした普及活動を展開していくためには、青年部・女性部・フレッシュミズの部会員の皆様との連携が重要だと考えております。今後とも一層のご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、青年部・女性部・フレッシュミズの益々の発展と部会員の皆様のご健勝をご祈念申し上げ、お祝いのあいさつとさせていただきます。





10周年記念誌発刊によせて

オホーツク農協青年部協議会

会長 小松 友也

JAきたみらい青年部、女性部、フレッシュミズの三組織が10周年を迎え、記念誌を発刊されますことを心よりお祝い申し上げます。

我々青年部はよく「青年部だからできる」という言葉を耳にします。この言葉には、若いから何も考えないで前に進める、何でも言える、何でもできる、そんな考えが含まれているのかもしれませんが。ですが、私たちを取り巻く今日の農業情勢は、TPP交渉や農協改革など非常に厳しい状況下に置かれているうえに、毎年のように厳しく試練を与えてくる気象状況に加え、担い手不足など問題が山積みのなか、営農を強いられている現状にあります。

この現状のなか、我々青年部は若き担い手として未来へつなぐ活動を展開しなければなりません。今、各地域で、いろいろな形で展開されている食育活動、私たちのありのままを体験してもらおう農村ファームステイ、そして、このオホーツク管内で生産された農畜産物を知ってもらい、子供たちにその場でできるバター作り体験などを行っているオホーツク農業祭等を展開しております。

農政活動も農林水産省ファームステイ受入事業を通し、意見交換や農作業を体験してもらうことで我々の現状を把握して頂いたり、道外視察研修において地元選出国會議員とポリシーブックを活用した意見交換会を行い、今の農政問題に対する要請を行っています。

上記のことは、すべて目的があり、自分たちが今、何をしなければいけないのか、何をすべきかを考え実行しており、一人の力でできるものではありません。1,200名を超えるオホーツクの青年部員の力があってこそ実行できると考えています。

これからも、時代の流れを的確にとらえ、「青年部だからやるべきこと」をしっかり考え、活動して頂きたいと思います。

最後になりますが、オホーツク管内最大の組織を武器に更に強固なJAきたみらい外郭三組織の発展と、部員皆様方のご健勝ご多幸を心からお祈り申し上げ、10周年記念誌発刊にあたってのお祝いの言葉といたします。



記念誌発刊に寄せて

オホーツク JA 女性協議会

会長 馬 淵 陽子

「JAきたみらい」青年部・女性部・フレッシュミズ、それぞれの組織が揃って10周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

貴農協は、全道でも注目の大規模合併だったと記憶しています。そのなかでそれぞれの歴史を踏まえながら連絡協議会を経て、青年部・女性部・フレッシュミズの組織を設立された諸先輩の皆様の努力に感謝するとともに敬意を表します。

私の知る限りでは、支部(支所)の代表が全体の代表を兼ねる組織が多いなか、貴女性部の役員体制は、専従等により個々の負担軽減を図る先進的で堅実な体制であると思います。

女性はいつでも何役もの仕事をこなしているなか、最近では農業人として、経営のパートナーとしての役割も大きくなっていると感じます。それはこれからなお一層求められることだと思いますが、そこで女性部は、自分たちの仲間作りの場、学習の場、成長の場として何より生活の基礎の場として活動していきましょう。

多くの方々は、嫁いで新しい環境で、妻として、母として、農業人として何役もこなさなければなりません。「こんなに大変なのは私だけ?!」と思いつつも悩むことも多いなか、周りに仲間がいて話をするだけで気持ちが落ち着き、同じ思いに安心します。そこで新しい知恵をもらう、フレッシュミズはそんな役割を果たしていると考えます。

今、農業改革の真っ只中にいます。これからの農業を支える青年部。そのパートナーとしてのフレッシュミズ、そしてそれを育ててきた女性部。みなさんの力を合わせてこれからの農業を守り、発信していく核として、それぞれの組織の今後一層の御活躍と発展を心よりお祈り申し上げます。

